

平成20年度第3回渡子小学校校内研修(道徳教育) 兼—音戸中学校区学校間授業交流—

- ◆ 日時 平成20年6月24日(金)13:40~16:30
- ◆ 場所 渡子小学校6年生教室
- ◆ 参加者 渡子小学校教職員 音戸中学校区の学校長及び教職員 計16名

1 授業公開(13:40~14:25)

主題名 相手のことを考えて 2-(2)思いやり・親切
資料名 「雨〜星野富弘〜」 (出典:「6年生の道徳」文溪堂)
学習者 第6学年 男子2名 女子3名 計5名



◆授業の概要

- 導入……星野富弘さんという人物について話し合う。(写真・作品を提示し関心をもたせる。)
- 資料提示…「雨—星野富弘」を朗読する。(BGMで臨場感を出す。)
- 展開前段…①女の子は、どんな気持ちで星野さんの後を黙ってついて行ったのだろう。
ワークシート記述 (主要発問)
②何も言わずにただついてきただけの女の子に、星野さんはなぜ「ありがとう」と言ったのだろう。
③黙って帰って行った女の子は今、どんな思いでいるのだろう。
ワークシート記述
- 展開後段……自分自身の生活を振り返り、話し合う。
- 終末……教師の説話。

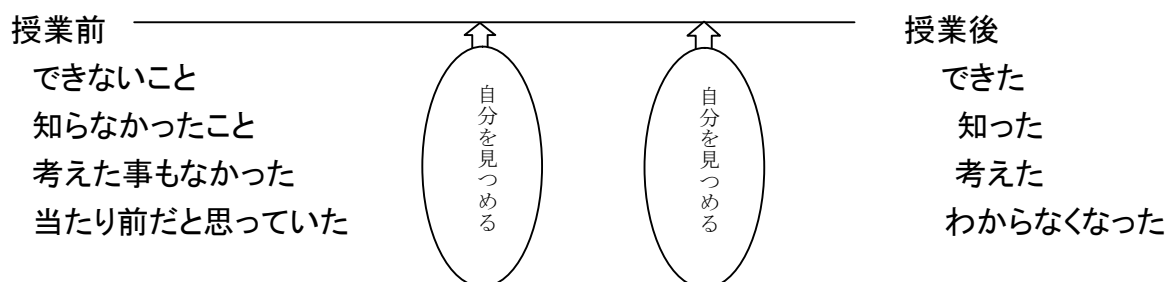
◆ 協議会

講師—広島大学大学院教育学研究科准教授 朝倉 淳 先生
協議の柱— 価値を高めるための発問のあり方。
少人数での話し合いにおけるかかわらせ方

- 資料・過程・発問・かかわり・本時の5点について講話。
- 一般的な道徳の資料の構成について、具体的に説明。
- 価値分析や価値の類型化をすることによって、授業の中で発言した児童の思いや考えがよくわかる。そういう意味からも価値分析は大切である。
- 授業前と授業後に違いがあるようにするための過程をど



のようになるか。ポイントは、「自分を見つめる」ということ。
資料との出会いにより、現在もつ自分の価値観を自覚する。



- 本時の目標は、本時固有の目標でなければならない。
- 道徳の時間は、同じ時間に、同じ空間で、同じテーマで自分を見つめる。日常、自分で見つめただけではできないことができる。出し合うことが大切。
- 発問については、だれのことを聞いているのか、何を聞いているのか、考えを聞いているのか、行為を聞いているのか、心情を聞いているのか、経験を聞いているのか、どうすべきかを聞いているのかを確認する。
- 少人数での話し合いにおけるかかわらせ方について難しいという課題が出されたが、少人数のよさを生かした授業づくりが必要である。今日の授業は、一人一人がどういう背景をもっているか、5人の考えをよく把握して授業に取り入れるなど、よく考えられた授業だった。